

①

神戸製鋼は2006年、創立100周年記念事業のひとつとして「コベルコ地域社会貢献基金」を設立しました。未来を担う「子どもたち」を対象に、これまで多くの施設や団体の活動を支えてきています。2011年度は、同年4月から神戸製鋼に復帰した福知山工場を含む、事業所・研究所がある10市1町で、67件の支援を行いました(表を参照)。

『KOBELCO Newsnet』では、今号から3号にわたって2011年度の支援先を紹介していきます。

| 事業所名 | 支援先 | 件数 | 支援内容 |
|----------------|-----------------------|----|-----------------------|
| 神戸本社(神戸市) | 障害者施設で活動する子どもたちの団体 | 1 | よさこいソーランに使う鳴子と大漁旗の購入費 |
| | 児童養護施設 | 1 | 地デジ対応テレビとブルーレイの購入費 |
| | 子ども会連合会 | 1 | 全自動わた菓子機と発電機の購入費 |
| 神戸総合技術研究所(神戸市) | 青少年育成協議会 | 1 | 青少年フェスティバル運営費 |
| 神戸製鉄所(神戸市) | まちのにぎわい創出実行委員会 | 1 | 自転車教室に使われる備品のレンタル費 |
| | 芸術祭実行委員会 | 1 | 芸術祭に必要な備品の購入費 |
| 加古川製鉄所(加古川市) | 子育てサークル | 5 | 活動備品購入費 |
| | 子どもが参加する環境保全ボランティア団体 | 1 | 活動備品購入費 |
| 高砂製作所(高砂市) | 学童保育所の管理運営団体 | 1 | 保育所備品の購入費とイベント運営費 |
| 播磨工場(播磨町) | 障害児の社会交流を支援する団体 | 1 | 花苗、土、肥料、プランターなどの購入費 |
| | 子どもたちに環境教育を行うボランティア団体 | 1 | 展示パネル、水槽、網などの活動備品の購入費 |
| 藤沢事業所(藤沢市) | 海洋少年団 | 1 | シーカヤック、パドルなどの購入費 |
| 福知山工場(福知山市) | 幼稚園 | 6 | 絵本、紙芝居などの図書購入費 |
| 茨木工場(茨木市) | 学童保育室 | 30 | 一輪車の購入費 |
| 西条工場(東広島市) | 保育所 | 5 | 幼児用身長計などの購入費 |
| 真岡製造所(真岡市) | 自然教育センター | 1 | 野外活動用テントの購入費 |
| 大安工場(いなべ市) | 子育て支援センター | 6 | 遊具・備品の購入費 |
| 長府製造所(下関市) | 障害児通園施設 | 1 | 遊具・備品の購入費 |
| | 子育て支援センター | 2 | DVDソフト、座卓などの購入費 |
| | | 67 | 総額 525万円 |

神戸製鉄所

●支援先：六甲アイランドまちなぎわい創出委員会(東灘区)／灘区総合芸術祭実行委員会(灘区)

神戸市東灘区の六甲アイランドでは、自転車で街を活性化させる「サイクルタウン構想」を進めています。未就学児から中学生までを対象にした市民自転車教室もその一環で、神戸製鉄所は備品レンタル費を支援しました。ゲーム形式のカリキュラムに、子どもたちは楽しく自転車のマナーやルールを学びました。

一方、神戸市灘区では同区の魅力を知ってもらうため、地元の学校や地域団体が主体となった「灘区総合芸術祭」が昨年11月5・12日に行われ、神戸製鉄所は備品購入費を支援しました。5日はシンプンBBプラザでステージイベントを、12日は王子公園でワークショップイベントを開催。総来場者は約3500人に上り、子どもたちにとっては地元を再発見する機会となったようです。



補助輪外しコースでは毎回、参加者の3分の1が当日乗れるように



普段話す機会がない中高大生と出会う、子どもたちは大はしゃぎ



福知山工場

●支援先：福知山市立幼稚園6カ所

福知山市の学校図書、とくに市立幼稚園の図書の傷みが著しいことから、福知山工場は市立幼稚園6園すべてに絵本などを寄贈しました。その数は合計で135冊です。

市では、幼稚園や保育園で本の読み聞かせを積極的に推進しています。6園のひとつ、福知山幼稚園では読み聞かせが毎日行われ、園児たちは先生の話にじっと耳を澄ませています。



たくさんの絵本が並ぶ福知山幼稚園の本棚

茨木工場

●支援先：茨木市内学童保育室30カ所

体力づくりを重視する小学校の多くで導入される一輪車は、同様の目的で学童保育室でも導入され、子どもたちに人気があります。茨木工場は、茨木市内に30カ所ある学童保育室へ合計50台の一輪車を贈りました。

乗れるようになるために、何度も挑戦する子。それを優しくサポートする上級生。一輪車を通じて、物事をやり遂げる力や学年の差を越えた交流が生まれています。



学童保育室から、楽しそうなお礼のポスターが届いた

神戸製鋼が2006年に開始した「コベルコ地域社会貢献基金」は、未来を担う「子どもたち」を支援する社会貢献活動です。本誌では、前号から3回にわたって昨年度の内容を紹介しています。今回紹介するのは、高砂製作所、西条工場、大安工場、長府製造所、神戸本社の支援先です。



高砂製作所 ● 支援先：NPO法人

高砂製作所は、NPO法人高砂キッズ・スペースを支援しました。このNPO法人は、高砂市内に12カ所ある学童保育所の管理運営を行う一方、子ども参加型イベントの企画もしています。高砂製作所は、学童保育所のテーブルなど備品購入と「こどものまち『高砂』2011」の運営費を支援しました。

「こどものまち『高砂』2011」は昨年11月、2日間にわたって開かれました。子どもたちが住民登録を行い、ハローワークで職を探し、給料を得て物を買うといった社会体験型イベントです。企画自体も、市内小学校で募った子どもスタッフを中心に計画し実施しました。



大安工場 ● 支援先：子育て支援センター

大安工場は、いなべ市の子育て支援センターを支援しました。市内に6カ所ある子育て支援センターへ、ベビーカーや「出前ひろば」で使うおもちゃや絵本を寄贈しました。

「出前ひろば」とは、交通手段がない、知り合いが少ないなどの理由で子育て支援センターを利用しにくい人のために、地域の公共施設などへ子育て支援センターの方が出向く取り組みです。いなべ市は、全国で初めて子育て支援専用車（おでかけGo〈号〉）を導入するなど、子育て支援に力を入れています。大安工場が贈ったおもちゃも、おでかけGoに乗って市内各地を回っています。



神戸本社 ● 支援先：障害者施設で活動する子どもたちの団体、児童養護施設、子ども会連合会

神戸本社は、障害者施設・つくしんぼで活動しているかがやき隊、児童養護施設・神戸真生塾、神戸市北区子ども会連合会の3件を支援しました。

地域への施設開放が元で始まったかがやき隊は、地域の子どもたちと障害者が一緒に踊るよさこいソーランのグループで、踊りに使う鳴子と大漁旗を贈りました。

120年以上の歴史を持つ神戸真生塾では、全職員が家庭的な施設を目指し、子どもたちを温かく受け入れています。寄贈した地デジ対応テレビとブルーレイレコーダは、日々の娯楽や映像学習に使われています。

そして、神戸市北区子ども会連合会には、全自動わた菓子機一式を贈りました。屋内外で行われるイベントに登場し、子どもたちに喜んでもらっています。

西条工場 ● 支援先：保育所5カ所

コベルコ地域社会貢献基金が始まってから、西条工場は東広島市の公立保育所に身長計を贈り続けています。2011年度は、デジタル身長計が4カ所、乳児用身長計が1カ所で、寄贈件数は延べ25カ所になりました。

身体測定は子どもの成長を見るうえで、大切な指標。しかし、元気いっぱいの子どもたちは、じっとしてくれません。「デジタル身長計だと、すばやく、正確に測れ、子どもたちの健やかな成長を記録することができる」とのことです。



「お礼に」と、子どもたち手づくりのメダルをいただいた

長府製造所 ● 支援先：障害児通園施設、子育て支援センター2カ所

長府製造所は、下関市内の3カ所に三輪車や幼児向けDVDソフトなどを贈りました。

下関市子ども発達センターは、心身の発達に心配がある子どもの早期療育や訓練を行う障害児通園施設です。保護者との交流を積極的に図り、子ども1人ひとりの発達に合わせた対応を行っています。また、支援した2つの子育て支援センターは、どちらも保育所が運営母体で、そのノウハウを生かし、地域と連携しながら未就園児がいる家庭を支えています。

寄贈した遊具や備品は、子どもたちの日々の学びや遊びに役立てられています。



神戸本社 ● 支援先：障害者施設で活動する子どもたちの団体、児童養護施設、子ども会連合会

神戸本社は、障害者施設・つくしんぼで活動しているかがやき隊、児童養護施設・神戸真生塾、神戸市北区子ども会連合会の3件を支援しました。

地域への施設開放が元で始まったかがやき隊は、地域の子どもたちと障害者が一緒に踊るよさこいソーランのグループで、踊りに使う鳴子と大漁旗を贈りました。

120年以上の歴史を持つ神戸真生塾では、全職員が家庭的な施設を目指し、子どもたちを温かく受け入れています。寄贈した地デジ対応テレビとブルーレイレコーダは、日々の娯楽や映像学習に使われています。

そして、神戸市北区子ども会連合会には、全自動わた菓子機一式を贈りました。屋内外で行われるイベントに登場し、子どもたちに喜んでもらっています。



神戸製鋼が2006年度に開始した「コベルコ地域社会貢献基金」は、未来を担う「子どもたち」を支援する社会貢献活動です。本誌では、3回にわたって昨年度の支援内容を紹介しています。最終回は、神戸総合技術研究所、加古川製鉄所、播磨工場、藤沢工場です。

神戸総合技術研究所

神戸総合技術研究所は、神戸市西区で毎年開催される「西区青少年フェスティバル」の平成23（2011）年度開催費を支援しました。

西区青少年フェスティバルは、次代を担う青少年（小学生から大学生）が自立と自己実現を図ることができる場を提供する、青少年参加型イベントです。善行青少年表彰式と青少年によるアトラクションの2部構成になっています。アトラクションでは、延べ約500人の来場者を前に、和太鼓演奏やクラシックバレエなど多岐にわたる演目が披露さ



れました。神戸総合技術研究所は、青少年の健全育成を図るこのイベントを2007年度から（2008年度を除き）継続して支援してきました。

加古川製鉄所

加古川製鉄所が支援したのは、子育てサークル5カ所と環境保全ボランティア団体1カ所です。

子育てサークルでは、子育て中の親子が集まって共に活動することで、仲間づくりや情報交換を行います。「子育てに携わる人同士が集まることができる場はとても大切」という思いからスタートしたのは、東加古川子育てプラザで活動する「めりーごらんど」。リズム体操や絵本の読み聞かせなどのほか、夏には夏祭りやスイカ割りというよう



に季節ごとのイベントを企画・実行し、メンバー同士、そして親子の絆を深めています。

播磨工場

播磨工場は、はりまデザインラボとふれあいエコアップ塾を支援しました。

特別支援学校と地域との連携を図るはりまデザインラボは、特別支援学校生を含む障害者や地元小学生などが花を育てて播磨町内に配る「花でつなぐプロジェクト」を行っています。播磨工場が2010年度に引き続いて支援したこのイベントが、特別支援学校と子どもたちとのコミュニケーション拡大に活用されました。

一方のふれあいエコアップ塾は、地域の子どもたちや住民に対して環境や地域交流に関する事業を通じ、人間と自然との共生を啓発する活



動を行っています。その事業の数は年間100件以上にもなります。播磨工場は、環境教育備品の提供や環境啓発看板の制作などで同塾の活動を支援しました。

藤沢工場

藤沢工場は、藤沢海洋少年団にシーカヤックなどの備品を寄贈しました。

藤沢海洋少年団は、「感謝と誠実」をモットーに江ノ島で海上訓練を通じて子どもたちの育成を行っています。小学1年から高校3年までの異なる世代が協力して活動することで、子どもたちは刺激を受けます。どんどん成長していく子どもたちを見守ることは、スタッフの楽しみようです。藤沢工場は、寄贈した3艇のシーカヤックなどを活用することで、より多くの子どもたちに海上訓練の機会を持ってもらいたいと考えています。



コベルコ地域社会貢献基金のこれまでの実績が、グループイントラで閲覧可能になりました。トップページ左メニュー下の「コベルコ地域社会貢献基金」というボタンをクリック。支援先からのお礼状なども掲載していますので、ぜひご覧ください。